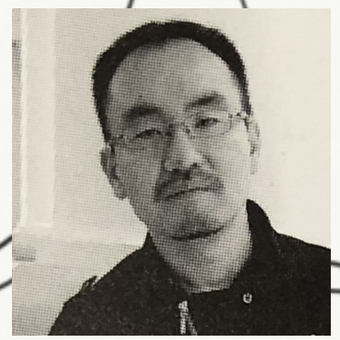
＜サン・チャイルドが福島にやって来るまで＞

サン・チャイルドは、若い世代に強い支持を得ているアーティストヤノベケンジの代表作。チェルノブイリに取材したアトムスーツプロジェクトなど、人間が作り出してしまった制御できないものをテーマとしてきたヤノベケンジが東京電力福島第一原子力発電所事故に直面し制作した。

2010年に福島県立美術館で開催された展覧会に参加したことで福島に縁を持ったヤノベケンジは、2011年に放射能汚染から再生する平和な福島のイメージを宿したサン・チャイルドの制作に着手する。サン・チャイルドは防護服のマスクをはずし微笑むかわいらしい男の子の大型彫刻として制作された。汚れた世界に対峙し、マスクを取って高らかに復活を告げる少年は、さながら巨人ゴリアテに挑んで勝利する現代の「ダビデ像」である、と作者はいう。

サン・チャイルドは福島で発生した原発事故と、そこからの再生を願って制作されたものである。ヤノベケンジは震災後の福島をたびたび訪れ、今後の福島の復興と再生可能エネルギーに深い関心を寄せている。震災後の福島の復興と再生の姿を見つめていく中で、より強い福島とのきずなを確認したヤノベケンジは、サン・チャイルドが福島にとどまり長く復興を見つめる象徴となることを願ってきた。この度、ヤノベケンジ、一財)ふくしま未来研究会、福島市の３者が協力して福島へ来ることが実現した。再生可能エネルギーが未来の子どもたちへの贈り物となるべく、再エネ促進の象徴、ならびに子どもたちの情操のかん養の促進に資するいちばんふさわしい場所として、子どもが多数集まる施設を選び、こむこむの入り口に恒久的に設置することになった。

ヤノベケンジ



1965年生まれ。1990年より、現代社会における「サヴァイヴァル」をテーマに実機能のある機械彫刻やモニュメントを制作。創作の原点は、幼少期に遊び場として過ごした大阪万博跡地「未来の廃墟」。1997年にはチェルノブイリを訪問するアトムスーツ・プロジェクトを開始するなど、ユーモラスな形態に社会的メッセージを込めた作品群は国内外で評価が高い。東日本大震災以後は福島ビエンナーレに継続参加するなど、地域と共鳴する巨大彫刻で人々に希望と未来のビジョンを提示する活動を続けている。

ヤノベケンジ2018

ようこそ！サン・チャイルド
ふくしまに来た光の子